

兵庫県公立学校教員採用候補者選考試験の結果、全体で合格者61名増員して発表 教員不足の状況を踏まえ、教員採用試験合格者増員!!

——昨年からの教職員未配置解消を求める私たちの運動の成果——

兵庫県教育委員会は9月26日、令和6年度兵庫県公立学校教員採用候補者選考試験の結果を発表しました。今年の大きな特徴は「教員不足の状況を踏まえ、小学校、中学校、特別支援学校の合格者を増員したこと」です。このことは、未配置解消を求めて、市町教委への協力を経て実態調査を行ったことや県教委へ要望書を提出するなど私たちのとりくみの大きな成果であることは間違いありません。

今、「未配置解消を求める署名」はネット署名と紙署名合わせて9700筆近く集まっています。同時に10月1日時点での「未配置実態調査」も依頼・集計中です。11月の対県確定交渉でさらに運動をすすめ、この問題の解消のさらなる前進のためにとりくみを一層強めましょう。

試験結果の特徴(県教委資料抜粋)

1 受験状況 (下表参照)

- ・教員不足の状況を踏まえ、小学校、中学校、特別支援学校の合格者を66名増員
- ・中学校では、保健体育9.2倍、社会5.2倍、音楽5.0倍が高い倍率

2 多様な人材の確保

- (1) 複数中学校免許取得者の確保 3人
- (2) 英語能力に優れた教員の確保 7人
- (3) 一芸、一能に秀でた人材 14人

3 合格者の概要



	募集数	受験者数	第2次合格者数	倍率	増員
小学校	365	1491	395	3.8	30
中学校	285	1023	305	3.4	20
高等学校	240	1139	234	4.9	▲6(定員割れ)
養護教諭	20	258	21	12.3	1
栄養教諭	5	82	5	16.4	-
特別支援学校	80	250	96	2.6	16
合計	995	4243	1056	4.0	61

上の表からもわかるように、小学校で30名、中学校で20名、特別支援学校16名と合格者を増やしています。これは私たちが運動で、「少なくとも定員未充足については、採用数を増やすなど県教委の責任で対応すべきだ」と言っていた内容にそのまま応えるものです。6月30日に提出した要望書の具体的項目としてあげていた**①年度当初からの未配置(定員未充足)を防ぐために、新規教員採用数を大幅に増やすこと**。が、まだまだ不十分ですが一歩前進したことになります。これはまさに私たちの運動の成果です。

未配置の解消のためには、採用数を増やすことと同時に、未配置の原因となっている「長時間過密労働の解消」や「処遇の改善」を進めることが重要になってきます。秋の確定交渉ではさらにこの点のとりくみを強めることが重要です。

未配置解消のため、「長時間過密労働の解消・教職員の処遇改善」を大きくすすめよう!